


まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門・“はじめの一步”部門」
まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

<p>提案名</p>	<p>ようこそ鳴子へ！新旧・世代を結ぶ共感育みプロジェクト （新住民歓迎交流会、鳴子コミュニティガーデン など）</p>			
<p>団体名</p>	<p>鳴子きずなの会</p>			
<p>提案の活動を行う地域</p>	<p>名古屋市緑区鳴子学区 及び その周辺地域</p>			
<p>提案内容</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="352 723 866 1025"> <p>【鳴子学区の現状・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が約4割 ・引きこもりがちな高齢者の生きがいづくり・健康づくりの支援 ・建替が進むUR団地内のコミュニティ再構築と高齢世帯の見守り ・増加する子育て世代等の転入者と地域との信頼関係づくり ・小地域（町内会）単位での交流事業等の地道な地域活動の展開 </td> <td data-bbox="898 723 1406 1025"> <p>【当会の成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力を見つめ直し、力量にあった小さな地域交流事業に継続的に実施 ・若者グループやNPOなどの新たな担い手と地域との連携を支援 ・地域課題や環境変化に応じて地域に喜ばれることを愚直に継続 ・町内会や学区連協等の自治組織の活性化のための協働 </td> </tr> </table>		<p>【鳴子学区の現状・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が約4割 ・引きこもりがちな高齢者の生きがいづくり・健康づくりの支援 ・建替が進むUR団地内のコミュニティ再構築と高齢世帯の見守り ・増加する子育て世代等の転入者と地域との信頼関係づくり ・小地域（町内会）単位での交流事業等の地道な地域活動の展開 	<p>【当会の成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力を見つめ直し、力量にあった小さな地域交流事業に継続的に実施 ・若者グループやNPOなどの新たな担い手と地域との連携を支援 ・地域課題や環境変化に応じて地域に喜ばれることを愚直に継続 ・町内会や学区連協等の自治組織の活性化のための協働
	<p>【鳴子学区の現状・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が約4割 ・引きこもりがちな高齢者の生きがいづくり・健康づくりの支援 ・建替が進むUR団地内のコミュニティ再構築と高齢世帯の見守り ・増加する子育て世代等の転入者と地域との信頼関係づくり ・小地域（町内会）単位での交流事業等の地道な地域活動の展開 	<p>【当会の成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力を見つめ直し、力量にあった小さな地域交流事業に継続的に実施 ・若者グループやNPOなどの新たな担い手と地域との連携を支援 ・地域課題や環境変化に応じて地域に喜ばれることを愚直に継続 ・町内会や学区連協等の自治組織の活性化のための協働 		
<p>【本年度の活動のねらい（提案にこめた想い）】 過渡期を迎えて様々な環境変化が進んでいる鳴子学区において（例：UR建替え、マンション建設、人口増、当会の地域交流活動の実績等）それらの変化をコミュニティの活力アップに活かすために新旧・世代の交流と地域への愛着を深める活動を実践したい！</p>				
<p>1. 新旧住民の新たな絆を結ぶ「鳴子新住民歓迎交流プロジェクト」 背景・目的 不安を抱えて新天地での暮らしをスタートする新住民に、地域から歓迎と応援の気持ちを伝えて交流を図るとともに、入居当初からコミュニティの一員としての自覚と地域への愛着を育てていく。 内容 ①身近な町内会単位（例：新鳴子町内会）で「町内隣人祭り（新住民歓迎会）」を開催し、餅つき・炊き出しなどで交流を深める。②親子を対象に「星を見る会」を開催（地元の天文愛好家が企画・運営）して、楽しみのある地域活動を体感してもらう。③気軽に参加できるラジオ体操へ勧誘し、新旧や世代を超えてともに汗をかく時間を共有する。</p> <p>2. コミュニティガーデンで人づくり・絆づくり 花咲かボランティアによる「鳴子きずなの花園」づくり 背景・目的 花を愛好する中高年女性や親子、新住民、小中学校などに、コミュニティガーデン（地域の花園）づくりを通じて地域活動への参加・体験の機会を広げるとともに、楽しさや充実感を共有し新たな仲間作りを促す。 内容 「花水緑の会」との連携・指導のもとで花苗を育てて、コミセンや中央公園、鳴子北駅周辺などに花植えする。なお、緑社会福祉協議会の協力で先行的に「花咲かボランティア」登録を始め、既に10名のボランティアの参加を得ているので、本格的なボランティアの募集、小中学校との連携等により活動の輪を広げて、花育てを通じた交流活動を地道に進めていく。</p> <p>3. 夏祭りなどの地域行事等における元気高齢者の活躍の舞台 「ジジババはつらつプロジェクト」（活動発表、文化伝承） 背景・目的 地域での居場所や活躍の機会が減少し、引きこもりがちな高齢者に、豊かな知識や経験を活かした地域貢献・社会参加の機会（舞台）を提供し、「生きがい・絆づくり」、さらには新住民や子ども達への「生活文化の継承」を推し進める。 内容 『夏祭り』及び『コミセン祭り』などの既存の地域行事に、高齢者が日頃取組んでいる趣味のサークル活動やボランティア活動などを発表してもら</p>				

<p>うとともに、展示ブース「ジジババ広場」を設けて子どもたちに昔遊びを伝承し、世代間交流の機会として役立ててもらおう。</p> <p>4. 「鳴子住民フォーラム」「ワクワク座談会」「HP」の3つのプラットフォームで世代・組織をつなぐ「対話の場」づくり</p> <p>背景・目的 各種地域団体、個人をネットワークし、地域課題や今後の方向性、解決の取組などについて横断的な議論を深めるとともに、より多くの学区民への興味・関心を喚起し、地域づくりの土壌を粘り強く育ていく。</p> <p>内容 ①【年1回】手づくりの「第2回鳴子住民フォーラム」を開催。新旧・世代間交流を通じたまちづくりなどをテーマに、町内会単位でワールドカフェの手法を用いながら対話型の意見交換を行い、多様な住民の興味・関心を喚起する。②【月1回】「鳴子ワクワク座談会」を継続し、日々変化する地域のニーズや課題を多様なメンバーとリアルタイムに議論して、課題や解決策を導き出す。③【情報基盤】若者や子育て世代等を巻き込むための日常的な情報共有基盤としてHPを開設し住民の交流に役立てる。</p>			
活動期間	平成24年4月～平成25年3月	助成金交付申請額	50万円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

<p>審査基準①</p> <p>必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か 	<p>■新住民を地域力アップの担い手として徐々に巻き込んでいく</p> <p>コミュニティの担い手増加や若返りを図る上でも、新住民との交流を深めて、地域活動への関心を促すとともに、担い手としての自覚を徐々に育てていくことが大事。</p> <p>■暮らしの基盤となる「小地域（町内会）単位」の地域活動を活性化</p> <p>これまで、都市センターの助成等を得て、主にコミュニティ単位の交流活動を展開し、組織・団体の発掘・連携を進めてきた。今後は、町内会における新旧住民交流などを通じて、暮らしに密着した小地域の絆づくりを進めていくことが求められる。</p> <p>■個人の地域活動への参加を促す 気軽な“第一歩（きっかけ）”を提供する</p> <p>これまで、当会メンバーも楽しみながら各種団体が主役となって活躍できる舞台作りを進めてきた。今後は、地域への想いを温めている個人に働きかけて、気軽に地域づくりに参加してもらえるようなきっかけを積極的に提供していくことが不可欠である。</p> <p>■高齢者の“役立ち感”に満ちた生きがいづくりを応援する</p> <p>観劇などの高齢者が楽しめる娯楽や生活情報提供などを進めてきた。今年度は、高齢者自身が主役となって、役立ち感を感じて主体的に生きがいづくりや地域づくりに関わられるように、大勢の住民が参加する地域行事等における活躍の機会を提供する。</p>
<p>審査基準②</p> <p>独創性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか 	<p>■地域から新住民へ「歓迎・応援メッセージ」を伝える多様な交流事業</p> <p>転入してきた新住民を地域ぐるみで歓迎し、地域に溶け込んでもらえるように応援するという取組は他に例がなく、新旧融合を図る上で画期的な交流事業と自負している。</p> <p>■素人手づくりの企画運営による、来場者参加型のまちづくりフォーラム</p> <p>専門家のアドバイスを受けながらも、企画やパネラーの人選、会場準備、集客まで全て手づくりで行うフォーラム事業は、他の学区ではみられない先進的な取組である。</p> <p>■大学やNPOなどの連携を通じて、不足しがちな新しい発想やノウハウなどを確保</p> <p>「花水緑の会」や「たすけあい名古屋」などの実力のあるNPO等と地域が連携することで、不足するノウハウやマンパワーを的確に補いあう関係は、今後の地域づくりのヒントとなりうる。また、本年度は中京大学の要請に応じてインターンシップ生を7名（総合政策学部 羅研究室）受け入れて、学生のパワーと発想力を活かして活動の活性化を図ることから、地域と大学の連携のあり方についても新たな成果が期待できる。</p>
<p>審査基準③</p> <p>実現性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案内容が具体的になっているか ・事業予算は妥当か 	
<p>時期</p> <p>平成24年4月 5～6月</p>	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の取組成果と課題について、定例座談会にて意見交換。 ・メンバーの意向を踏まえて、年度計画を関係団体と打合せ。 ・「花咲かボランティア」の募集を先行的に開始。 ・花苗育てとともに、花園づくりを月1回程度のペースで継続。

7～8月	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者団体と意見交換。「夏祭り」の展示ブースで活動発表。 ・夏休みを利用して「星を見る会」開催、ラジオ体操へ新住民を勧誘。 ・「鳴子まちづくりフォーラム」の企画・準備（人選、テーマ、チラシ等）
9～10月	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の支援でHPの立ち上げ準備。仮HPを立ち上げ。 ・町内会単位の隣人祭りを開催（餅つき、炊き出しなど）。 ・「コミセン祭り」で高齢者ブースを出展して昔遊びの伝授。 ・「鳴子まちづくりフォーラム」の開催
11～12月 平成25年1～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの本格運用開始。 ・「ワクワク座談会」で、成果と課題、次年度の活動方針等を検討 ・インターンシップ生の成果報告会（大学と連携）

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書（※別紙参照）

<p>審査基準④</p> <p>発展性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか
<p>■自治組織（縦系）とNPO等（横系）を結び、学区連絡協議会の活性化につなげる</p> <p>学区連絡協議会では、行政からの依頼による既存事業の継続に終始しがちである。当会が仲人役となって様々な活動や各種団体を横断的に結びつけて、相乗効果を発揮できるように新たな企画提言を行い、微力ながら学区組織の活性化の一助になっている。</p>	
<p>■コミュニティ再生にむけて、都市再生機構や緑社会福祉協議会等と連携</p> <p>UR 鳴子団地の建替えと並行して、昨年度から団地内の自治活動を支援。また、今年度は緑社会福祉協議会とともに「孤立防止推進事業」にも取り組んでいく予定。関係組織との連携を通じて、当会が団地等におけるコミュニティづくりにも寄与していきたい。</p>	
<p>■次世代の鳴子地域の担い手の発掘・育成</p> <p>新住民の歓迎会、花植えを通じた協力者の発掘、小中学校との連携、高齢者の社会参加支援の取組みが、新たな地域自治の担い手の発掘に中長期的につながっていくものと認識している。</p>	
<p>■多世代・異分野の住民の意識共有のための多様な「対話」と「実践」の場づくり</p> <p>多岐にわたる生活課題を有するコミュニティにおいては、世代や組織を超えて問題意識や方向性、成功体験を共有することが地域活動の基盤となる。着実に地域力を高めるために様々な「対話」と「実践」の場を地道に持ち続けることが地域への波及効果を生む。</p>	
	
<p>3年間、約40回を数える座談会</p>	
<p>審査基準⑤</p> <p>活動実績と主体性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか（団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。） ・具体的にどんな熱意を注いでいるか
<p>■これまでの活動実績・成果</p> <p>下記のような活動に取組み、着実に地域の理解と参加を得てきた。また、活動が評価されて学区連絡協議会の一員になり助成金を得るなど、地域組織との連携も深化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子や若者、様々な団体が主役となった「鳴子元気サミット（右下写真）」開催 ・「花植え」や「シンボルツリー植樹」などをイベントとして開催 ・地域の資源や魅力を題材にして「散策マップ作成」や「フォーラム」を開催 ・都市再生機構と連携して、鳴子団地のコミュニティ再生にも協力 ・地域の絆づくりの小さなきっかけとして「ラジオ体操」「座談会」を3年間継続 	
<p>■「第2ステージ：本格活動期」に向けた想い・熱意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鳴子住民の絆を深めていきたい」という強い想いをもって、楽しみながら「やりたいこと・できること」に1つずつ取組み、小さな実績を重ねてきた。 ・地域住民の想いを汲み取り、常にオープンな姿勢で地域と向き合ってきたことで、世代や組織を超えて新たな「人の輪」が広がってきたことが大きな成果。 ・昨年度は、「鳴子学区未来のまちづくり提言書」をまとめあげ、名古屋市副市長をはじめ行政関係者に対しても地域住民のメッセージを発信（提言）してきた。 ・ただし、まだまだ活動経験が浅く“趣味の活動”にとどまっている面もあり、力量不足を痛感している。 ・これまで以上に、住民に喜びを感じてもらい、またメンバーもやりがいを感じられるように、住民視点で地域に望まれる活動に愚直にチャレンジしていきたい。 	
	

(別紙) 助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書

活動項目	内訳		金額(円)
新住民 歓迎交流 プロジェクト	炊き出し材料費	もち米、野菜、お茶等	30,000
	飲食用備品	紙皿、割り箸、紙コップ等	10,000
	講師等謝礼	地元天文専門家等への謝礼	5,000
	小計		45,000
鳴子きずなの 花園づくり (花植え)	謝金	指導団体への謝礼	10,000
	消耗品費	軍手、ゴミ袋、看板等	20,000
	会議費	お茶代 @150×200	30,000
	種苗代	種(10種類程度)、花苗	20,000
	苗木代	記念植樹用の苗木	15,000
小計		95,000	
ジジババ はつらつ プロジェクト	会場設営費	テント・椅子・テーブル看板等	20,000
	消耗品費	材料費・文房具等	15,000
	会議費	お茶代 @150×60名	9,000
小計		44,000	
鳴子まちづくり フォーラム	会場設営費	ブース・舞台・音響・ 客席・看板等	100,000
	消耗品費	設営に係る雑貨・文房具等	35,000
	会議費	お茶代 @150×150名	22,500
	謝金・交通費	講師謝礼・交通費 (H23年度は中田實先生を招聘)	50,000
小計		207,500	
共通 (HP含む)	事務費	会議等資料コピー代	30,000
		事務用品購入(模造紙等)	5,000
	謝金	アドバイザー謝礼(5回程度)	50,000
	印刷費(しおり)	@30×500(カラー)	15,000
	(チラシ類)	@15×4,000(白黒)	60,000
	ボランティア保険	@150円×200名、 各種屋外活動など	30,000
ホームページ開設	サーバレンタル、 製作費(学生への謝礼等)	50,000 15,000	
小計		255,000	
総計	都市センター助成金 500,000円 自己資金 146,500円(前年繰越金、学区助成金等)		646,500